

2026年度日系社会研修 コース概要

No	43
所管センター	東北
分野	医療・介護・高齢化対策
研修コース名	音楽リハビリ・プログラム
受入人数	8
受入時期	下半期
来日日	2026年11月11日（水）
帰国日	2026年12月12日（土）
提案団体	株式会社ゆらリズム
提案団体ウェブサイトアドレス	https://www.yura-ongaku.com
研修員必要資格	高齢者福祉を中心とした保健医療福祉業務に従事、もしくは日常的に高齢者へ関与している者（看護師や介護士相当の資格あれば尚可）
研修員に必要な実務経験年数	不問
研修使用言語	日本語、ポルトガル語またはスペイン語
日本語能力（JLPT目安）	不問
英語能力	不問
研修目標	・音楽リハビリ・プログラムの理論と実技を習得する ・帰国後に現地でリハビリの実施やスタッフ等の指導・訓練ができる人材を育成する ・日本国と日系社会との関係強化のための交流を促進する
期待される成果（習得する技術）	・高齢者の介護予防に必要な6つ観点「運動器機能向上」「口腔機能向上」「栄養改善」「認知症予防」「閉じこもり予防」「うつ病予防」を理解する ・6つの観点をどのようにプログラムとして展開していくのかを理解し、実際に展開できる ・リラクゼーションヨガ、リズム運動、音楽セッションの3つのプログラムの運営管理手法を習得する ・音楽を活用した運動、音楽演奏手法、脳の活性化訓練手法を習得する
研修計画（内容）	1. 講義：研修会場で講師による講義の実施 2. 実習・OJT：音楽リハビリ・プログラムの実演 3. 見学：ゆらリズム（通所介護施設）・他高齢者施設の見学 4. 演習：ゆらリズム等で利用者様向けのプログラム実施 5. 発表：研修内容についてのレポート作成、発表
本研修実施の意義 現地日系社会への裨益効果	本研修は中南米地域の国々が対象であり、その中で最も人口が多い国はブラジルである。ブラジルの人口は約2億人でブラジル当局の発表によると2023年時点でブラジルの65歳以上の割合は10.63%で世界的に見てもかなり低い数値だが、今後日本を上回るほどの速さで高齢化が進むとの試算がでている。ブラジルは中南米地域の中でも日系人が多く、2023年外務省発表によると約270万人という統計がある。ブラジルだけでなく、中南米地域の日系人が高齢になっていくことは想像に難くない。高齢社会では介護予防の視点が重要になってくるが、日本では介護にならないための考え方「介護予防」は一般に浸透しており、介護保険制度も充実している。しかし、中南米では介護保険制度に似た制度はないのに加え、介護予防の意識が低いと言われている。音楽リハビリ・プログラムは介護予防をしっかりと行うという理論や意識よりもプログラムをまずは実施することで自然にかつ楽しく介護予防が行えるという性質がある。そしてこのプログラムには介護予防の要素がふんだんに含まれているという流れで行っていく。このような流れは日本のみならず中南米地域に住む日系人にも過去に帰国研修員が多数実施しており、有用であることは証明されている。また、本プログラムは音楽を扱うが、日系人であれば理解できる日本の昔懐かしい曲や、各国で共通の曲を歌ったり楽器を演奏する。現地に住む日系人にとってはとても懐かしく受け入れられやすいものとなっている。
応募希望者への特記事項	研修は宮城県仙台市内で行い、宿舎は仙台市内ホテルを予定